

家族支援・支援体制サポート強化事業の充実に向けて

1 保護者へのアンケート調査から見た現状・課題・支援策

現状

- (1) 全体: 約6割が回答
- (2) すくすくファイルを持っている保護者が2割 (幼児言語教室では4割)、もっていない保護者が8割。
- (3) すくすくファイルを持っていても、シートに記入しているのは2割。(幼児言語教室では5割) オプションシート(二部・三部)まで記入している人もいる。
- (4) シートを記入している人のうち3割が関係機関(保育園・幼児言語教室・医療機関等)で使用している。(幼児言語教室では、5割以上)
- (5) ファイルの内容・大きさ・紙質については、このままでよいという回答が4割以上ではあったが、使いにくさ、物足りなさを感じている。
- (6) すくすくファイルと母子手帳の2冊記入、保存するのは大変、違いがわからない。
- (7) 母子手帳をもう少し充実させてほしい。
- (8) 保護者の約2割が子育てにおいて「言葉・発達のおくれ」など気になる場所があると感じている。
- (9) 子育てに気になる場所があると感じている保護者の相談先⇒保育園34%・保健福祉センター26%・幼児言語教室24%・医療機関23%・その他に、子どもと気軽に行ける「児童館」「子育て支援センター」等
- (10) 「育児相談をする所が分からない」「気軽に子どもの事(発達・育児の悩み)を相談したい」と思っている保護者がいる。

課題

- (1) すくすくファイルは、ほぼ全員に配付されているはずだが、2割しか持っていない。
- (2) すくすくファイルを全員に配付しているにも関わらず、子どもの「言葉・発達のおくれ」など、子育てにおいて気になる場所があると回答した17.5%の人が、すくすくファイルを持っていなかった。
⇒すくすくファイルの使い勝手や、使用方法の周知がされていないことで、ファイルに対する保護者の意識付けがされていないと考えられる。
- (3) すくすくファイルの内容や形式が保護者の思う用途に合っていない。
⇒使用し易いすくすくファイルになっていない。
- (4) 保護者が気軽に相談できる場所が少ない。

支援策

1 すくすくファイルの見直し

① 内容・大きさ・紙質について再検討

現行のすくすくファイルの基本シート、二部、三部、サポートプランをまとめた形式で活用を考える。

② 目的・対象者・使用方法・配付方法・周知方法について検討する。

対象を広げすぎると使われないまま終わってしまう。
発達と成長の記録⇒相談支援ファイル(移行支援ファイル)として成人期までサポートできるものにする。

2 支援体制サポート強化事業(ペアレントメンター活用)により保護者支援を強化する。

2 「公・私立保育園」「幼児言語教室」実態調査(「すくすくファイル」/「サポートプラン(個別支援計画)」の活用状況)から見た現状・課題・支援策

現状

- (1) 公・私立保育園108園中102園(94%)
幼児言語教室4教室(100%)から回答
- (2) 公・私立保育園では少数ではあるが、
保護者から「すくすくファイル」の提示
があつて相談を受けるケースがある。
- (3) 個別支援計画作成状況
公立保育園(作成44園90%、未作成4園
8%、作成していないが必要性は感じ
ている1園2%)
私立保育園(作成22園42%、未作成20園
38%、作成していないが必要性は感じて
いる10園19%)
- (4) 公・私立保育園、幼児言語教室ともに、
発達支援を必要とする児童数の増加が
みられた。
- (5) 「すくすくファイル」/「サポートプラン
(個別支援計画)」を関係機関との情報
共有・引継ツールとして使用すること
については、「個人情報の壁」「保護者の
理解・同意」が必要となり難しい。
- (6) 「すくすくファイル」/「サポートプラン
(個別支援計画)」の様式について、内
容・大きさ・紙質は「このままでよい」が
5割以上の回答であった。

課題

- (1) 「すくすくファイル」の理解・認知がされ
ていない。
⇒保護者の気づきと特性理解が早期支援
につながる。
- (2) 個別支援計画の作成状況について、
「必要性は感じているが作成していない」
と回答した園に対する支援が不十分。
- (3) 「すくすくファイル」を関係機関の情報共有、
引継ツールとして活用されていない。

支援策

- 1 各園、幼児言語教室の回答票を基に、支援を求
める園について再調査を行い、サポートコーチによ
る巡回指導を実施し、職員の支援技術の向上に努
める。
- 2 ペアレントメンター活用による相談体制を充実す
る。(保護者が気軽に相談できる場所づくり)
《効果》
 - ① 保護者への気づきと特性理解の促進。
 - ② 個人情報使用への理解・同意の促進。
- 3 すくすくファイルを使い易いように改訂する。
《効果》
 - ① すくすくファイルの活用促進が図られ、早期
発見・早期支援につながる。
 - ② 情報共有ツール・引継ツールとして活用促進。

3 「公・私立保育園」「幼児言語教室」実態調査(支援体制サポート強化事業)から見えた現状・課題・支援策

現状

(公・私立保育園)

1 サポートコーチによる巡回指導実施状況

①今まで受けたことがある園

全体102園中68園(67%)

(公立76%、私立58%)

効果について、99%の園から「効果がある」または「大変効果がある」と高い評価であった。

②今まで受けたことがない園

29園中20園(70%)が、サポートコーチによる巡回指導を受けてみたいと回答。

2 ペアレントメンターの活用について

①保護者支援を目的としたペアレントメンターの派遣を希望する園、教室

保育園:102園中46園(45%)

幼児言語教室4教室中2教室(50%)

②事業内容により希望する園、教室

保育園20園(20%)

幼児言語教室2教室(50%)

⇒ ①②あわせると、保護者支援について、幼児言語4教室(100%)、公・私立保育園66園(65%)が具体的な支援の必要性を感じていることがわかった。

課題

(1)市内実施園の把握から、希望する園に対して、今後計画的な巡回指導を実施するための体制整備が必要。

(2)各園、幼児言語教室において、保護者支援の重要性を感じているが、支援体制が十分でない。

支援策

1 家族支援・支援体制サポート強化事業の強化

① 支援サポートコーチによる巡回指導の拡充

⇒実施を希望する未実施園に巡回指導を実施。

② ペアレントメンター活用による相談体制の充実

⇒既存施設を利用した育児相談会等の実施。

(保護者が気軽に相談できる場所づくり)

2 特別支援連携協議会との連携事業の提案

① 静岡市における巡回相談事業の実施園等の事前調整を行い、効率的な巡回相談事業の実施を目指す。

② ペアレントメンター活用に向け、既存施設を管轄する関係課との事業内容調整・検討。(既存施設:幼児言語教室、子育て支援センター、児童館、保育園・幼稚園、各保健福祉センター(あそびの教室)等)

③ 相談支援ファイル「すくすくファイル」の活用・各機関への周知